

西表島フィールド研修

8月7日（日）から11日（木）までの4泊5日の日程で、西表島フィールド研修を実施しました。この研修は本年度予定していた海外研修の代替として、沖縄県の西表島と石垣島をフィールドとして実施したもので、1、2年生の希望者10名が参加しました。うち5人はマングローブ生態系をテーマとするマングローブ班、別の5人は海洋に広がるプラスチック問題をテーマとする海洋プラスチック班としてそれぞれの研究を進めています。



琉球大学熱帯生物圏研究センター屋上からみた調査地船浦湾（左）、施設入り口（右）



星砂の海岸での調査

マングローブ調査の様子（オヒルギとヤエヤマヒルギ）

【マングローブ班】

マングローブ班は、ヤエヤマヒルギとオヒルギを主な対象種として、黄変色した葉の塩分濃度（ナトリウムイオン濃度）は緑葉に比べて高くなるという現象について塩分濃度計とイオンセンサーを用いて検証することを目的に研究を進めています。琉球大学熱帯生物圏研究センターの渡辺先生の御指導のもと、船浦湾のマングローブ調査を実施し、観光では絶対に足を踏み入れないような泥とぬかるみの広がる特異的なマングローブ生態系を全身で感じる事ができました。今後データ解析を進めて、この研究の内容を今年度内にまとめて校外で発表する予定です。



左側は水深が浅いのでヤエヤマヒルギ、右側は深いのでオヒルギが茂る（左） 黄葉を食べるキバウミニナ（右）

【海洋プラスチック班】

海洋プラスチック班は、西表島内7か所の海岸で漂着プラスチックごみの調査を実施しました。海流や風との関係、バーコードによる国の判別、ふるい分けによるマイクロプラスチックの分別解析などを行って、その結果を今年度内にまとめて校外で発表する予定です。



漂着したプラスチックごみの回収と分別、その後解析を実施